2014 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	ティーチング・アシスタント（ＴＡ）・リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	研究会、セミナー、シンポジュウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	・留学生のサポートを行う TA として採用可能な日本人院生(後期課程)が少ないため内部での確保が困難な状況にある。また、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）と技術スタッフは不要である。 ・従来の「院生研究報告会」(年二回)の実施、『アジア学論集』(第 13 号)の発行に加えてアジア地域研究科発足以来はじめての国際シンポジウム「台頭する中国とアジアの新秩序」を 2013 年 11 月に開催したほか、同 12 月にはインドで本研究科とインドの大学で合同国際会議を行うなど、さまざまな学術交流の推進をはかった。
7-6	教務委員会、ＦＤ委員会が研究科委員長、専攻主任と連携し、年度ごとの自己点検・評価において、教育研究環境の適切性について検討を行っている。

【効果が上がっている事項】

7-4	国際交流の推進
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	院生の主体性を高めるため、ティーチング・アシスタントの協力のもと、教員が主体となっている報告会実施や論集編集を院生主体に切り替える作業が必要。
7-6	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「台頭する中国とアジアの新秩序」(国際シンポジウムプログラムおよび報告要旨集:別添);インドでの合同会議のプログラム(別添)他

《指標データ》　なし

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	7-4　ティーチング・アシスタント（ＴＡ）の教育研究支援体制を整備する。	ティーチングアシスタントの『アジア学論集』編集と「院生報告会」運営への積極的支援を実現する。	→					
14 年度目標	7-4　ティーチング・アシスタントの教育研究支援体制の検討を開始する。	検討の進捗状況を研究科委員会に報告する。	→	A				